

スコアシート 実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体	
		評価点	重み係数	評価点	
Q 建築物の環境品質					3.3
Q1 室内環境			0.40		3.4
1 音環境		3.2	0.15	-	3.2
1.1 騒音		3.0	0.40	-	
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-
1.3 吸音	居室の床と天井に吸音性の高い材料を使用	4.0	0.20	3.0	-
2 温熱環境		3.0	0.35	-	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-
2.1.1 室温設定		3.0	0.38	3.0	-
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-
2.1.3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	3.0	-
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-
2.1.6 個別制御		-	-	-	-
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-
2.1.8 監視システム		-	-	-	-
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-
3 光・視環境		3.5	0.25	-	3.5
3.1 昼光利用		2.8	0.30	-	-
3.1.1 昼光率		2.0	0.60	3.0	-
3.1.2 方位別開口		3.0	-	3.0	-
3.1.3 昼光利用設備	ライトシェルフを設置	4.0	0.40	3.0	-
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-
3.2.2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-
3.3 照度		4.0	0.15	-	-
3.3.1 照度	平均照度として750lx以上を確保	4.0	1.00	3.0	-
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-
3.4 照明制御	細かな作業単位での照明制御が可能	5.0	0.25	3.0	-
4 空気質環境		4.1	0.25	-	4.1
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-
4.1.1 化学汚染物質	全面的にF☆☆☆☆の仕上げ材を採用	4.0	1.00	3.0	-
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-
4.2 換気		3.6	0.30	-	-
4.2.1 換気量	十分な換気量を確保	5.0	0.33	3.0	-
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-
4.2.4 給気計画		-	-	-	-
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-
4.3.1 CO ₂ の監視		-	-	-	-
4.3.2 喫煙の制御	喫煙室を設置し、喫煙室内部が陰圧となるよう計画	5.0	1.00	-	-
Q2 サービス性能		-	0.30	-	3.5
1 機能性		3.6	0.40	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.57	-	-
1.1.1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-
1.1.3 バリアフリー計画	京都市の条例に合致した計画	4.0	0.33	3.0	-
1.2 心理性・快適性		4.0	0.43	-	-
1.2.1 広さ感・景観	事務室の天井高さは2.7mとし、各室に外気に面した窓を設置	4.0	0.33	3.0	-
1.2.2 リフレッシュスペース	事務室と別に談話スペースを設け、自動販売機等を設置	5.0	0.33	3.0	-
1.2.3 内装計画		3.0	0.33	3.0	-
1.3 維持管理		-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31	-	3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-
2.1.1 耐震性		3.0	0.80	-	-
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33	-	-
2.2.1 躯体材料の耐用年数	耐久性の高い躯体材料を使用	4.0	0.23	-	-
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	補修間隔の長い仕上げ材を採用	5.0	0.09	-	-
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の高い配管材を採用	5.0	0.15	-	-
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-
1	空調・換気設備	非常用発電装置を設置し、電源設備は屋上に設置	3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	通信手段の多様化を計画、また精密機械を設置する室は地上に	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.6	0.29	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階の高さは4.0m以上	5.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比が0.18	4.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	ラックを設置、またOAフロアにより容易な更新が可能	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	ラックを設置、またOAフロアにより容易な更新が可能	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちの新しいシンボルとなるよう立面を計画	4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	ライトシェルフにより、室内へ自然光を導く計画	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR=0	3.8	0.30	-	3.8
4 効率的運用			4.5	0.20	-	4.5
4.1	モニタリング	使用エネルギーについての監視を計画	5.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制	省エネを目指した運用管理体制を検討	4.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.5
1 水資源保護			3.8	0.15	-	3.8
1.1	節水	節水コマ等の器具を採用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.6	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	雨水貯留タンクを設置し、散水への利用を計画	4.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.63	-	3.5
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	ビニル床タイル、ビニル床シート、再生木デッキ	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と容易に分離しやすい工法を採用	4.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-
1	消火剤	消火剤として特殊ガスを使用しない	4.0	0.33	-	-
2	断熱材		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		運用時における効率的なエネルギー利用を計画	3.1	0.33	-	3.1
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
2.1	大気汚染防止	全館オール電化とし、燃焼ガスを発生させない	5.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制	敷地内に十分な駐車場と待機スペースを確保	4.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		-	-	-	-
2	日照阻害の抑制		3.0	1.00	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-